研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-730	A-540	21-089	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol Consumption and Cardiovascular Outcomes in Patients With Nonalcoholic Fatty Liver Disease: A Population-Based Cohort Study

非アルコール性脂肪性肝疾患患者におけるアルコール摂取と心血管アウトカム

執筆者

Lee SR, Choi EK, Jung JH, Han KD, Oh S, Lip GYH.

掲載誌

Hepatol Commun. 2022 Mar;6(3):526-534. doi: 10.1002/hep4.1828.

キーワード	PMID
アルコール飲酒、循環器疾患、コホート研究、 非アルコール性脂肪性肝疾患	8870048

要　旨

目的：低用量のアルコール摂取は、一般集団における心血管疾患（CVD）の抑制と関連している。CVD リスクが高い非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）患者において、この関連が見られるかどうかは明らかではない。

方法：一般集団コホートにおける NAFLD を有する対象者において、アルコール摂取と CVD 関連の転帰との関連を検討した。1994～1995 年の Busselton Health 調査に参加し、臨床的および生化学的な評価を受けたものを対象とした。NAFLD は、ウエスト周囲径、BMI、γGT、中性脂肪から算出される Fatty Liver Index（FLI）60 以上で評価した。アルコール摂取は質問票を用いて定量化した。ベースライン調査後 20 年間の CVD による入院と死亡は、西オーストラリア州のデータリンクシステムを用いて確認された。

結果：4,843 人の対象者のうち、659 人が NAFLD と診断された。週当たりの飲酒量は、男性で 8.0 杯、女性で 4.0 杯であった。男性では、週に 1～7 杯を消費する群と比較し、週に 8～21 杯消費の群では、CVD 入院のリスクが 38%（[HR] 0.62、95%CI　0.43-0.90）低くかった。男女合わせた結果では、週に 1～7 杯を消費する群と比較し、週 8～21 杯の飲酒は、CVD 入院の 32%（HR 0.68, 95%CI 0.49-0.93）減少、多変量調整後モデルでは 29%（HR 0.71, 95%CI 0.51-0.99）の減少がみられた。多量飲酒においては予防的な関連は見られなかった。また、アルコール摂取と CVD 死亡との関連はみられなかった（HR 0.81, 95%CI 0.46-1.45）。

結論： NAFLD 患者では、低～中等度のアルコール摂取は、CVD 入院の減少に関連するが、CVD 死亡には関連しない。